今月の話題 No.258

〈 富山から消えた動物　1 〉

ト　キ

* * *

今年は、佐渡トキ保護センターで中国生まれのトキの夫婦から優優（ユウユウ）が誕生し話題になっています。少なくなったトキを人工増殖（じんこうぞうしょく）で増やすため野生のトキを全て捕えて以来、約 19 年後に成功しました。昔はたくさんいたトキがどうしていなくなり、人の手によって増やさなければならなくなったのでしょうか。

＜トキの楽園（らくえん）から暗黒時代へ＞

江戸時代はトキは全国に生息し、富山県（越中（えっちゅう））にもすんでいました。江戸時代は、鉄砲（てっぽう）は自由に使用することができませんでしたので、野鳥が乱獲（らんかく）されることはありませんでした。また、藩の所有する山がたくさんあり、樹木を伐採（ばっさい）することが禁止され、いたるところに大型の野鳥が巣をつくったり、エサ場になる所がありました。加賀藩では、近江（おうみ）（滋賀県）から取り寄せたトキ 100 羽を小矢部川流域に放し、その後いついたことが記録に残っています。トキがいついた場所は、現在は集落や水田、畑になっています。しかし江戸時代は平野部でも林がたくさんあり、川が氾濫（はんらん）してできた沼がいたる所にあり、巣を作ったり、エサ場になる所がたくさんありました。

しかし、明治時代に入ると、銃（じゅう）の使用が野放しとなり、トキやコウノトリなどが乱獲され、大型の野鳥がどんどん減ってしまい、トキとコウノトリが保護鳥に指定された明治 41 年にはほとんどいなくなってしまいました。一時は絶滅したと思われていましたが、昭和の初めに石川県能登（のと）半島と佐渡（さど）の里山で生き残っていたトキが発見されました。この頃には能登半島には 5～10 羽、佐渡島には 100 羽ほどが生息していたとされています。しかし、昭和 16 年から始まった太平洋戦争で保護どころではなくなり、トキの生息地でも森林伐採が行われました。佐渡や能登のトキの営巣場所はアカマツやクリ、ケヤキなどの大木で、このような大木の生える林がどんどんなくなってしまいました。戦争後には能登半島で 10 羽以下、佐渡で 20 羽ほどに減ってしまいました。

＜保護と人工増殖＞

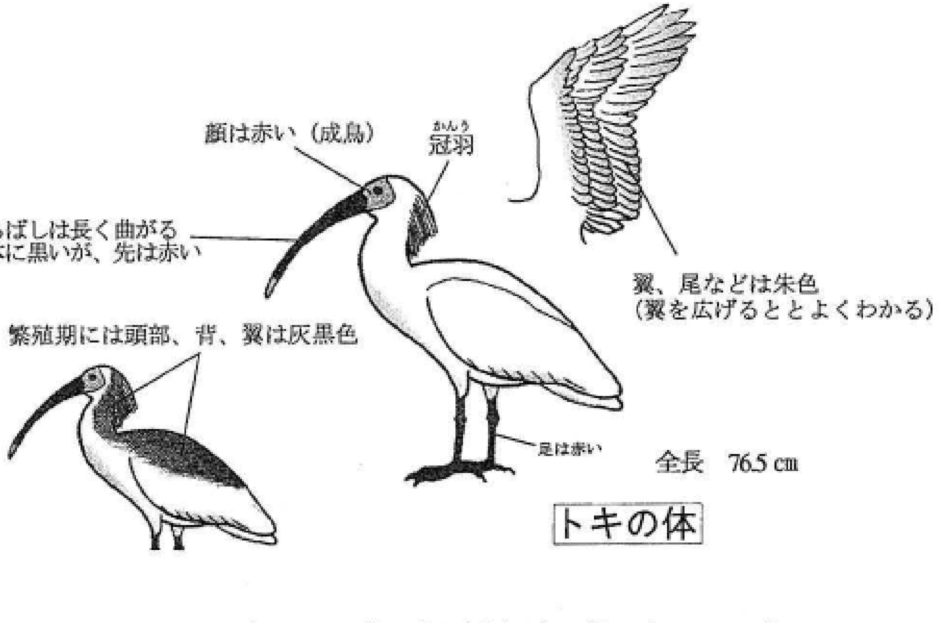
戦争が終わり、日本が復興（ふっこう）をめざして高度成長期に入ると、トキがすんでいた能登や佐渡の里山の環境もしだいに悪くなっていきました。トキは里山の水田のドジョウやカエルなどを食べていました。水田では農薬が使用され、エサになる生き物が減ってしまいました。トキの体からは農薬の成分の有機水銀もみつかりました。農地整備によっても、エサのドジョウやカエルなどの水生動物が減りました。そして、能登のトキは増えることなく、能登最後の 1 羽も昭和 45 年には佐渡へ移され

ましたが、翌年死んでしまいました。佐渡では、昭和 49 年までは毎年若鳥が巣立ちし、昭和 47 には 13 羽いましたが、その後は繁殖（はんしょく）がうまくいかず、結局昭和 54 年には 5 羽になってしまいました。

減ったトキを増やす最後の方法として、昭和 55 年～昭和 56 年には佐渡に生息していた野生最後のトキ 5 羽全てが人工増殖のため捕獲され、佐渡トキ保護センターで飼育されるようになりました。日本の空から野生のトキが消えたのです。しかし、人工増殖もうまくいかず、平成 7 年には、日本産のトキは昭和 43 年から保護され飼育されているメスのキン 1 羽だけとなりました。人間でいうと 100 才ほどにもなります。

日本のトキが絶滅の危機におちいっていた時に、絶滅したと思われていた中国では、昭和 56 年に陝西省洋県（せんせいしょうようけん）で再発見されました。中国ではその後の保護政策が実り、野生でも、人工増殖でも増え、平成 10 年には 130 羽ほど生息しています。今年（平成 11 年）1 月には、日中友好のため中国陝西省洋県トキ救護飼養センターから友友（ヨウヨウ）（オス）と洋洋（ヤンヤン）（メス）の夫婦が贈呈され、5 月 21 日には、待望のヒナが誕生し、現在すくすくと成長しています。

トキは、エサをとる水田や周辺に巣をつくる林がある里山にすんでいました。野生復帰の話がもちあがるほどトキが増えたときに、トキがすめる里山が富山にも残っていればよいと思います。なお、9 月 15 日（水）まで開催の特別展「共に生きよう！地球の仲間たち」でトキのハク製や写真を展示しています。（南部 久男）


顔は赤い（成鳥）
冠羽（かんう）
くちばしは長く曲がる
全体に黒いが、先は赤い
翼、尾などは朱色
（翼を広げるとよくわかる）
繁殖期には頭部、背、翼は灰黒色
足は赤い
全長 76.5 ㎝

トキの体

富山市科学文化センター
〒939-8084 富山市西中野町1-8-31（TEL.076-491-2123）
http://www.tsm.toyama.toyama.jp

平成11年9月1日